

「金銭管理の甘さ」このもっともな指摘をどう受け入れるか
～「信頼からの撤退」に対する考察⑯～

過日の神奈川新聞社説に、「金銭管理をしっかりせよ」というタイトルで、不祥事続きの交通局の続いた金銭問題について言及しています。

この事件で「金銭管理の甘さは否めない」「職員の意識改革も進んでいないのではという疑念」を書いています。確かに事件については、あってはならない出来事であり、お粗末極まりなく、一部の職員の犯罪によって、職員全体に疑念を抱かれるという、大変悔しい事件でした。

～「運賃」収納の流れはどうなっているのか～

バス職場の現場は、「運賃」についてどのように流れていくのでしょうか。乗客から収受した運賃については、基本的には全く乗務員の手には触れません。料金箱の不具合などで、手でのやりとりが発生することはありますが、極めてまれな事象です。収受した運賃は料金箱に入っている金庫に収納されます。

業務が終了すると、その金庫を解錠、営業所内にある回収機で回収します。ここでも全く現金は触れません。今回ポイントになった、回収機の下に設置してあるコンテナに回収され、このコンテナが一杯になったら担当者が随時取り替えるというシステムです。

しかし、車内の金庫にしても回収コンテナにしても、詰まったりするというトラブルが時々発生します。その時、その金庫やコンテナを担当者が解錠し、トラブルを解消していたのです。

この「解錠」について、多くの係員が知っているのは、今の現場では当たり前です。以前のように庶務担当者が随時職場にいれば別ですが、現在は日勤勤務のため、夜はいません。よって、この時現場にいる他の係員が対応することになります。そうすると、ほとんどの係員が解錠方法を知っていないと、トラブルは解消出来ないのです。

～報道の通り…金銭管理をしっかりし、声に耳を傾けることだ～

今回の不祥事で「営業所の売上金が不足」ということが報道されました。これには、この回収機の抜本的問題があります。

それは、「回収機では現金を数えられない」ということです。料金箱に投入された料金は、金庫についているICチップに計算されます。その情報を回収機に金庫を入れたときに情報を吸い上げ、パソコンにインプットされます。その時、売上金額が表示されますが、これは料金箱で数えたものであり、回収機では現金を数えません。銀行に行って初めて数えるわけです。その隙間をついた犯罪であり、非常に悪質です。

ただ、そのバスの方で数える料金箱の誤差が5%くらいあると報道がされていましたが、100億の5%は5億です。そんな誤差があっても良いのでしょうか。しかし、それ以上に、回収機で計算が出来ないのが抜本的問題であるのは事実で、報道にもある「金銭管理をしっかりせよ」は、当然の意見だと思えます。

現場の乗務員が問題だとすぐ懲戒処分があるにも係わらず、あった出来事に対して、管理する側の処分は果たしてどうなるのでしょうか。犯罪を犯した人間が処分されるのは当たり前ですが、犯罪を生む環境を作ってしまった、管理側の責任は重いのです。

横交は以前より提言をしていました。システム化に伴う誤差についての指摘や、明確な会計処理、また最近多い深夜スイッチの誤作動などは、新料金箱が設置される時、「カバーやブロックは付けられないものか」と最後まで提言していました。組合は、反対ばかりする団体では無いのです。より間違いが起きないようにするために、現場の声を反映させた、「職員提案」と何ら変わりはないのです。

当局も、そこを良くわきまえて、色々な指摘に対して耳を傾けることも必要な時もあるのでは無いでしょうか。それが思い切り失われた信頼を、少しずつ回復する方法のひとつだと思うのですが…。

(横交教宣部)